3 出土遺物

本丸御殿跡の発掘調査では、陶磁器・青磁・白磁・瓦質土器・土師質土器などの「器もの」を主とした遺物群が出土しています。また、瓦類が殆ど出土していないことも特徴的で、瓦葺き建物が近隣になかったか、土坑への廃棄などが行われなかったことを示します。カクランが深く及んでいたにも関わらず、少なからず中世後半(15~16 c)の青磁・白磁が出土することから、御殿跡地には室町~戦国時代にかけての居館があった可能性を示すものと考えています。



SK12355 (BK-36) ・ フク土出土遺物群

BK-36グリッドは土師質土器の出土が顕著。 SK12355の南北隣も別個の遺構が確認されました。 SK12355は玉石の廃棄土坑と考えていますが、これ らの遺物と共に埋め立てられていた遺構なので、 江戸初期の廃棄土坑と考えています。



BK-37 · Ⅱ 層出土遺物群(遺構フク土か?)

BK-37グリッドは地山Ⅲ層(黄色砂)が比較的高い位置で検出された地点です。多数の遺構が重複していました。フイゴの羽口は「鍛冶」関連遺物として、お城での武具鍛冶などが想定されます。



BK-35 · Ⅱ 層出土遺物群

BK-35グリッドは地境を示す石列(SR13075)を検出しましたが、同じ層位では顕著な遺構は発見されませんでした。しかし、その下位の層からは戦国時代を中心とした遺物群の一部が出土しました。



SK08314(BK-38)・フク土出土遺物群

BK-38グリッドは径3mを越す土坑(SK08314)が検出されました。現時点で掘り込み面はI層直下でしたが、遺物も伊万里・越前甕と近世期を示すため、近世最上期の遺構かもしれません。

編集後記

現地説明会開催に当たり関係各位に多大なご理解・ご協力を賜りましたこと誠に感謝申し上げます。尚、山形城跡の復原事業にかかわり山形市では関連する資料を探しています。お心当たりの方は下記までご連絡下さいますようお願いします。 【お問い合わせ先】〒990-8540 山形県山形市旅篭町二丁目3番25号 山形市まちづくり推進部公園緑地課 面023(641)1212代 【編集・発行】山形市教育委員会社会教育青少年課文化財保護係 平成25年10月13日(日曜日)

史跡山形城跡(2012~2013) 本丸御殿跡発掘調査現地説明会資料

平成25年10月13日(日) 山形市教育委員会社会教育青少年課

調査要項

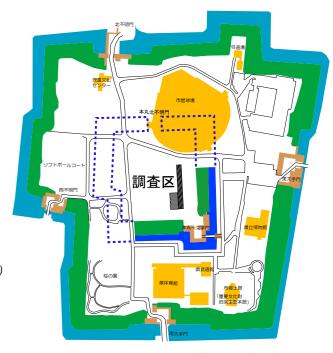
国指定史跡 山形城跡 跡 在 地 山形市霞城町 (霞城公園) 跡 番 遺 1番(山形県遺跡地図) 調 査 期 平成24年4月16日~9月28日, 平成25年5月28日~12月25日 (予定) 調 査 面 約700㎡ (説明会開催対象) +1, 000㎡ (平成25年度実施範囲) 調 史跡山形城跡(霞城公園)本丸西堀整備事業(文化庁補助事業) 査 原 因 遺 跡 種 別 城郭 (近世城郭) 近世・近現代 時 代 溝跡・土坑・ピット・石列遺構 など 陶磁器碗皿類・青磁碗皿類・白磁皿・土師質土器・瓦質土器・古銭・石製品 など 調査事業の主体 山形市公園緑地課 調査実施の機関 山形市教育委員会 山形市教育委員会社会教育青少年課 調査担当

1 概要(史跡の立地及び周辺の環境)

山形城跡は、最上義光が整備したといわれる本丸・ 二ノ丸・三ノ丸からなる平城です。現在、二ノ丸から 内側は霞城公園として憩の場となっていますが、昭和 61年国史跡指定を受けて以来整備が進められ、二ノ丸 東大手門や本丸一文字門石垣などが復原され新たなシ ンボルとなっています。整備は引き続き行われ、平成 23年度より「本丸西堀・西土塁跡」の調査を文化庁の 補助をうけて行っています。また、平成24年度より「 本丸御殿跡」の整備を目的とした発掘調査を同補助に より実施しており、西堀。西土塁跡と並行して調査を 行っております。

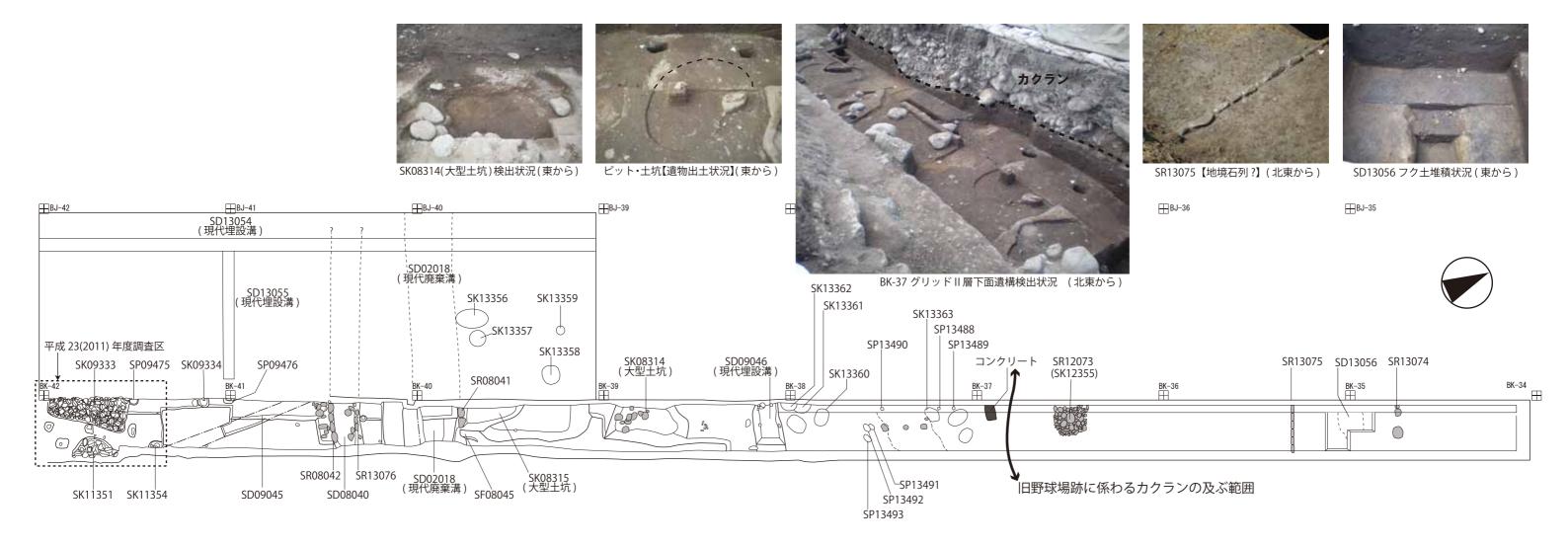
城跡の周囲は市街地となっており、ほぼその中心に位置します。市街北部を流れる馬見ヶ崎川による扇状地上に立地し、本丸一文字門付近で海抜約130mを測り湧水地帯に築かれた平城であったと考えられます。

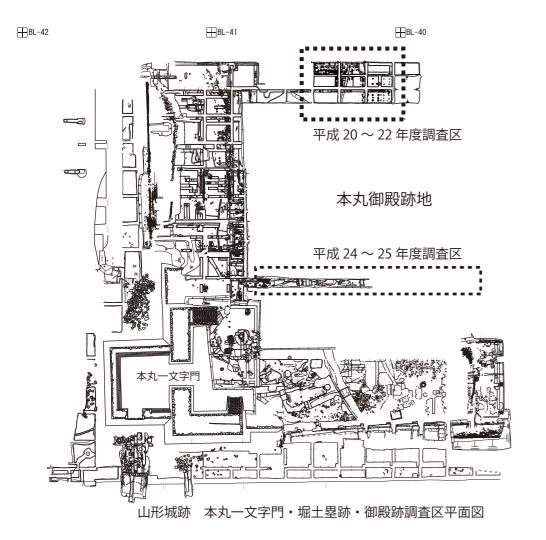
本丸御殿跡周辺は明治時代の改変により御殿に伴う 遺構は消滅しており、地下遺構の調査が重要と考えて おります。

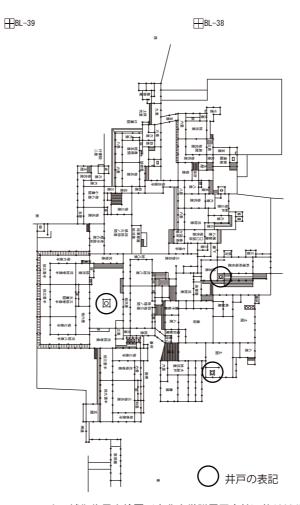


歴代薬主年表

近い	·/笛_	上十	14																								
明治二年	明 弘 治 二 年 年			B. 禾 匹 全			明和元丰	延 享 三 年		元禄十三年		デ 社 主	元禄五五年			写 2 2 2	寛文 (手	妻女工手	E RITE	寛永二十年	寛 永十三丰	; ;	元和八年			慶 長 五年 延文元年	和暦
_ 八 六 九	- 一 八 八 六 四 九 五			- t 7 t			 け 1 ウ 7	7.EU.	-		- ; 5 ; 0 ;				 \			 5 7 9 0 1 0	六 八 四 四		六三六		一 六 三 三		- ;; C		西暦
水野忠。	水野忠精	秋元志朝	秋元久朝	秋元永朝	秋元涼朝	幕於何	(大給)松平乗佑	堀田正き	堀田正春	堀った まきとら	(奥平)松平忠雅	(奥平)松平忠弘	(結城)松平直矩	堀田には、中では、たまさなか	奥平昌章	奥平昌能	(奥平)松平忠弘	(結城)松平直基	幕行领	保科正之	鳥居忠恒	鳥居忠政	最上家信(義俊)	最上家親が	長上義光 光	斯波兼頼	藩主
I T	<u> </u>	六 万 石					六万石		一〇万石		- () ?	_ 	一〇万石	一〇万石	ナ ア て	ኒ 5 5	十五万石	十五万石		二十万石	- - - 7	_ + _ 5		五十七万石			石高







山形城御住居之繪圖(東北大学附属図書館)約1000分の1

2 御殿跡遺構配置及び本丸御殿との関連性

₩BL-36

(1)遺構配置の現状

⊞ BL-37

本丸御殿跡は、南北約80m×5mのトレンチ調査を行いました。現状としてはBK-37グリッドを境に北側は現代カクラン(旧野球場跡)がやや深く及ぶとともに、地形的にもやや深く黒色粘性土が認められ、湿性地の可能性が高いと考えられます。御殿跡(鳥居氏時代以降)に係わる遺構は認められず、調査範囲では「井戸跡」も検出されませんでした。しかし、最上氏時代さかのぼる遺構群は辛うじて破壊をまぬがれ、ほとんどの地点で遺構が現存することが判明しました。また、遺構に伴うかあるいは包含層としての土層から中世〜近世初頭の遺物群が出土しました。最上義光による山形城の整備とそれ以前の城館・集落を内包していることが証明されます。

₩BL-35

(2) 御殿跡絵図との比較

本丸御殿を示す絵図の所在は数葉確認しています。それらは、時代が異なるほか、描かれている建物間取りの姿も若干相違があります。ほとんどの絵図には「井戸」の表記が認められます。井戸は深い遺構なので発掘調査によって御殿跡の位置を推定する重要な手がかりになると考えています。